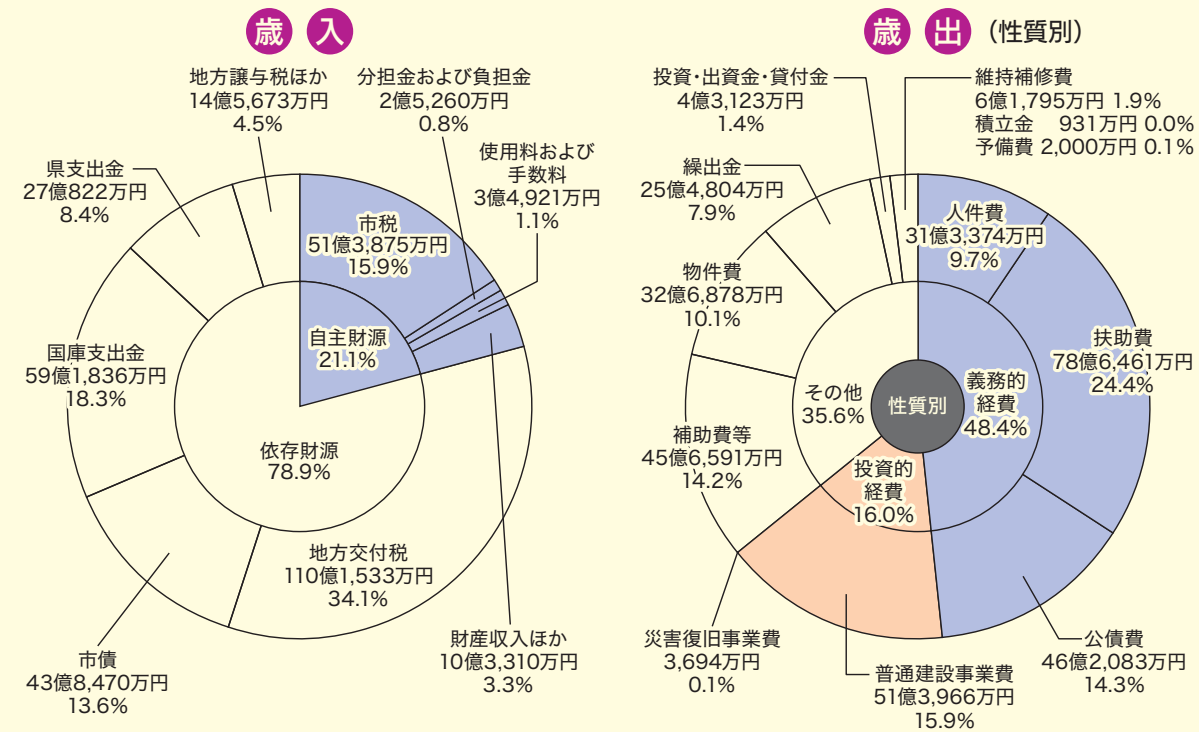


市の財政状況と2019年度予算について

この記事では、市民の皆さんに市の財政状況をお知らせするとともに、2019年度予算と予算編成方針についてご説明します。

財政課 内線2212

2019年度の一般会計予算（総額322億5,700万円）

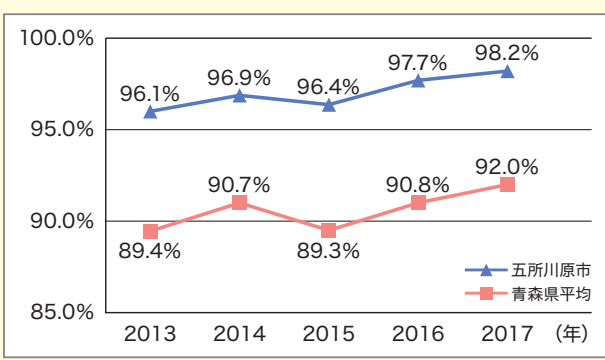


ポイント 2019年度の一般会計予算は322億5,700万円となり、前年度に比べ7億6,400万円の増となりました。増加した要因は、継続事業である「一般廃棄物最終処分場建設事業費」が前年度に比べ約11億円の増、「ふるさと交流圏民センター（オルテンシア）大規模改修事業費」が約3億6,000万円の増となったためです。

「財政の弾力性」(経常収支比率)・・・自由に使えるお金は1.8%しかない！

当市の財政の自由度を示す**経常収支比率**は、2017年度決算で**98.2%**であり、当市の財政の自由度(弾力性)はかなり低い状態と言えます。その要因について、歳入と歳出から分析します。

経常収支比率の推移



経常収支比率とは、財政構造の弾力性を測定する指標で、**低ければ低いほど、自由に使えるお金が多**くあることを示しています。当市は、青森県内の自治体平均と比較すると、数字が大幅に高く推移しており、自由に使えるお金が少ない状態が続いています。**既存事業の見直しを行い、縮小や廃止をしていかなければ、新しい事業が実施できない状況**にあります。

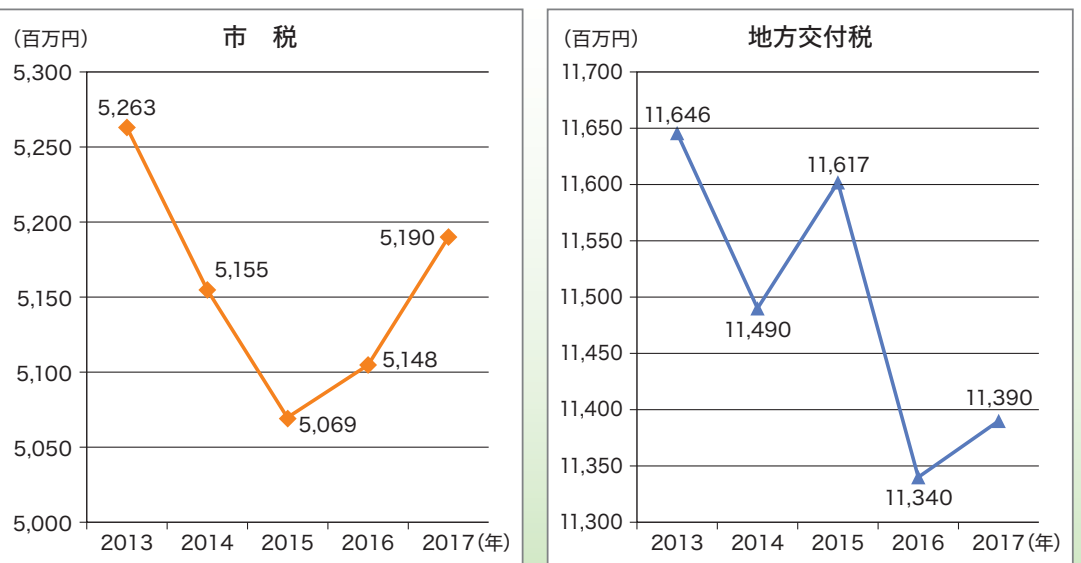
「歳入」と「歳出」

歳入・・・約2割の自主財源と減少傾向の地方交付税！

◆「自主財源」と「依存財源」
 「自主財源」は、市税などの自主的に集められるお金のことです。一方、「依存財源」は、国や県の基準に基づいて交付されたり、割り当てられるお金のことです。地方交付税は、国から配分される「依存財源」ですが、使える用途が広く、市の財政運営上、最も重要な財源です。

◆「自主財源」と「依存財源」の比率
 「自主財源」は2019年度予算の**21.1%**で、残りの**78.9%**が国からの地方交付税や市債(借金)でまかなわれている「依存財源」です。財源として大きい地方交付税は、**人口が減少すれば地方交付税も減額される**こととなるため、今後当市においても、減少するものと見込まれます。

主な歳入の推移



歳出・・・福祉や医療などの必要な経費は増加傾向！

◆**扶助費**
 生活保護、医療費、児童福祉、老人福祉などにかかる経費です。今後は子育て支援施策の充実のため、毎年増加が見込まれます。(右図)
 2016年度は臨時福祉給付金事業により決算額が特に高くなりました。

◆**公債費**
 公共施設の建設や改修の経費として借金した市債の返済に充てる経費で、2023年度まで増加が見込まれます。(次ページ上段右図)

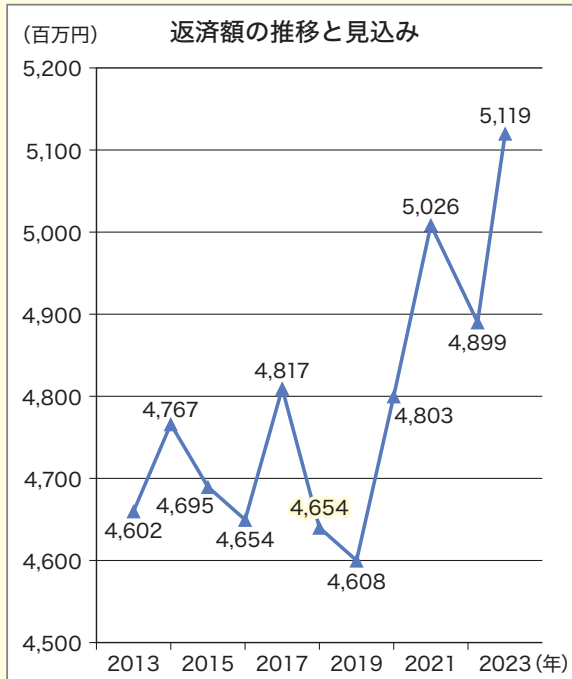
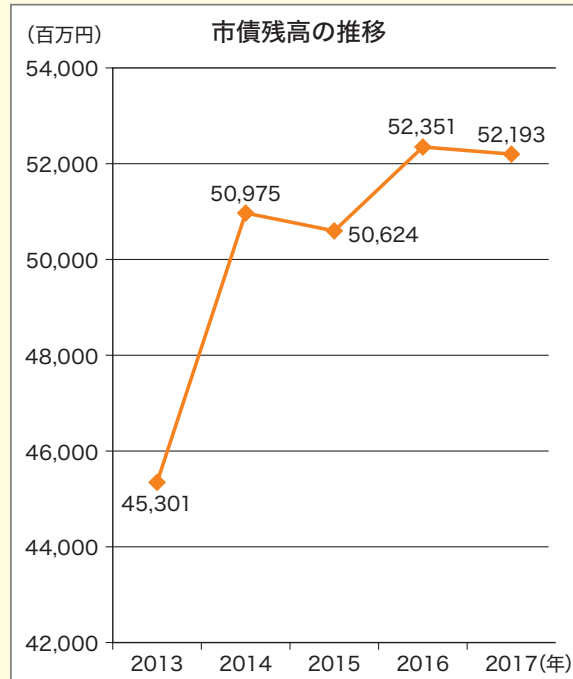
◆**普通建設事業費**
 市債を発行(借金)し、公共施設の建設や老朽化した道路、橋などを補修する経費です。後年度の公債費へ影響することになります。



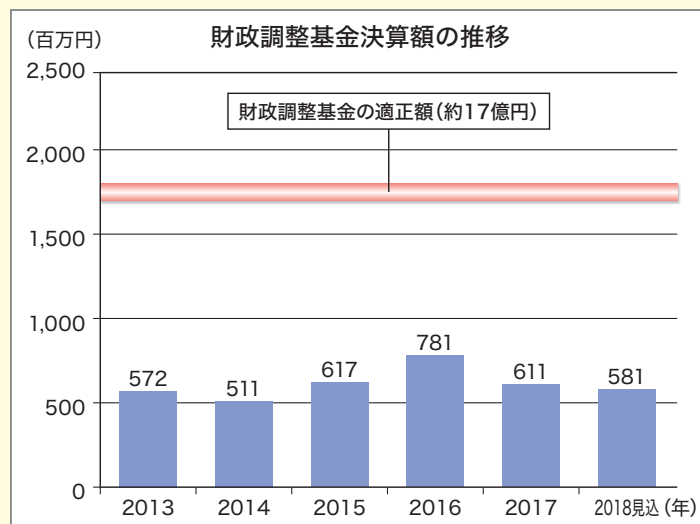
市債残高と公債費・・・約522億円の借金と約48億円の返済額！ 借金残高が市民1人あたり約94万円！

公共施設の建設や老朽化した道路、橋などを補修するため、市債を発行(借金)し、後年度に返済をしています。

2017年度決算で、市債(借金)の残高は約522億円となっており、返済額は約48億円でした。新たに借入しなくても返済額は増加傾向となっていることから、厳しい状況が続く見込みです。



基金の状況・・・危機的な状況の財政調整基金！



財政調整基金は、災害対応などの財源不足が生じた場合に、予算の不足分を補う市の貯金です。

一般的に「財政調整基金」は標準的な財政規模の1割程度(約17億円)が適正とされていますが、現状は大幅な乖離があります。

2019年度当初予算編成後の残高は約2億6,000万円となる見込みです。



もっと情報を詳しく知りたい方へ

次回の広報紙では、2019年度実施する事業について、紹介していきます。また、今回紹介した予算や過去の予算書等を市ホームページで公開しています。もっと詳しく知りたい方は、ご覧ください。右QRコードからアクセス可能です。



2019年度予算の編成方針

2019年度予算では、厳しい財政状況の中で、課題を解決しながら、市民の皆さんの安全・安心と生活の向上を着実に実行するため、次の基本方針に基づき、予算を編成しました。

子育て支援施策の充実



未来を見据えた将来への投資とし、子育て支援を最重点課題に設定

協働・連携事業の推進



近隣自治体や地域コミュニティ、民間企業との課題共有・連携による取り組み

事業・経費の整理と削減



全ての事務事業について必要性・内容を精査し、類似事業の整理・統合や効率化による見直し

2019年度予算編成にあたっての財源確保

グラフで見てきたように、市債(借金)の返済額は増加傾向ですが、自主財源や地方交付税等の大幅な増額は見込めない状況となっています。新たな試みに使用できる財源が乏しい状況のなかで、財源の確保を図るため、大きく2つの方策により予算編成を行いました。

1. 既存事業の大幅な見直し

今まで実施してきた事業を全て見直し、事業内容の精査や整理・統合により約9,400万円を確保しました。

2. 財政調整基金による調整

財政調整基金を約3億1,700万円取り崩し、歳入予算に計上しました。これにより基金残高を昨年の当初予算編成時より約1億2,900万円増やし、約2億6,000万円としました。今後ともムダを少なくし、基金の増額に努めていきます。

今後の方針

今後、安定的な財政を維持し、市民の皆さんが「良くなった」と実感できる市民目線の市政実現を目指し、下記方針に沿って、行財政改革に取り組んでいきます。

財政計画の策定



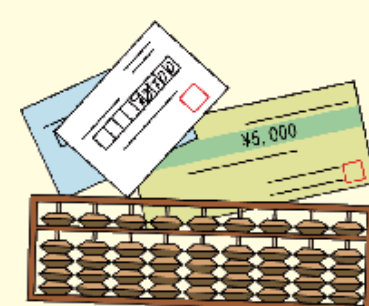
今後の財政見通しを踏まえた新たな財政計画を策定します

事業見直しによる削減



人員配置や行財政改革による歳出抑制を引き続き行います

事業見直しによる効率化



既存事業の内容精査を引き続き行い、整理・統合による効率化を図ります